

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人 知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林(桜)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新設で入居者様と毎日掃除を行い清潔で綺麗な施設です。その方の生活スタイルや過ごし方を尊重してその方らしさを大切にしています。のんびりとした日々の生活の中でも何か楽しみや刺激を持ってすごして頂けるようにしています。医療との連携も確保し体調管理などもしっかりと出来ていると思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年7月1日に開設した事業所は、デイサービスセンターが併設され、落ち着いた淡いベージュ色の外観で平屋建てのホームである。道路を挟んで高校があり、近くには小学校やコンビニ、住宅が広がり、生活の息吹が感じられる一角に位置している。職員一同、「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念を振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、自分らしくいられる場所で集い、笑い、安らぎある環境作りをも目指している。明るく清潔なホームは、それぞれのユニットやデイサービスセンターへ自由に往き来をして、イベントやカラオケなどで楽しい交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理し、食べる楽しみとなっている。大人の住む環境に心がけ、調度品や絵画など程よく配置している。柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成28年10月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について共有し理念に沿ったケアを意識して心がけて努めている。実践出来ているかは自信が無い。	玄関ホールに法人の理念が掲示してある。事業所独自に外出支援と地域交流に重点を置いた年間目標を掲げている。会議や面談で職員に周知していくと共に、日々のケアの中で理念に振り返り確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所を地域の一員として行事に参加をしている。地域の喫茶へも月に1度通っているが日常的ではない為頻度も増やしていけたらと思う。	開設後民生委員の会議に積極的に参加し、知名度を高めて自治区に加入ができた。地域情報を得て神社や公民館の祭りなどに参加している。事業所で地域サロンを開き、地域の人と交流をしたり、楽器演奏やカラオケなどボランティアを招いての交流もしている。散歩などで地域の人と挨拶を交わし、繋がりを持つようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ地域の皆様を招いて理解と協力をのよい機会になったが、認知症の理解や専門性の面での貢献とまではいっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っているが、その意見や内容が入居者様や職員に共有出来ていない。管理者のみの職員参加なので現場職員の参加も出来たら良いと思う。	家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センターの参加を得て、隔月毎に年6回開催されているが、平日開催のため家族の参加が、招集に努力をしている。事業所の状況や活動報告、サロン活動、感染症予防や身体拘束などについて話し合いや情報交換をしている。要望などは検討しサービス向上に繋げている。	家族が参加しやすいように、開催曜日を調整するなどの工夫が望まれる。また、会議の結果を職員や家族に公表したり、会議の内容などを年間計画として作成し、周知していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みを伝えながら関係性を築くように心掛けている。	事業所の活動状況報告時に、市の担当者とは情報交換をしたり、制度についての質問や困難事例の相談などをしてアドバイスを受け適正な協力関係が築かれている。運営推進会議には、包括支援センターの職員が毎回参加し情報を共有している。市が主催する研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考慮して施錠を行っているが、直接的な身体拘束は行っていない。言葉の静止などで拘束に繋がる言葉もあるので気をつけたい。	身体拘束についてのマニュアルがあり、オリエンテーションの中で研修をしている。スピーチロックに気を付けてケアをするように心がけている。安全に配慮し玄関や風呂場、事務所に施錠をしているが、各ユニットや隣接のデイサービスとは自由に行きしている。離床センサーやベットの使用もなく、拘束感のない生活をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行うような事はないが、法律や防止法について学ぶ機会がない。本人様が嫌がることを行わないを職員間での意識として共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会も無く活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や面談は管理者とケアマネが行い直接的に関わりが無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。直接家族から意見や要望を聞いていないので未だ分からない。	入居者からは、居室やお風呂など、入居者がつるげる場所や時間に意見を聞き出すようにしている。意見箱は常設しているが利用はないので、家族の訪問時や家族会などで職員が積極的に話しかけて意見や要望を聞くように心がけている。ホームだよりや法人だよりを配布し事業所の様子を知らせ、家族からの安心を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を言いやすい環境になっていると思う。また代表者や運営幹部とも事業所の問題点などを共有できていると思う。場合によっては直接話す機会もある。	日々のケアの中で職員間で随時意見を出し合いノートに記録し、申し送り時やユニット会議、ケース検討会で反映させ運営に活かしている。管理者は年に1回自己評価を通して職員と面談を行い意見や要望を聞いたり、仕事に対する悩みや意見などを聞いている。代表者に意見や要望が届く体制も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度や向上意識の個々の差がある。努力している職員にはさらなる向上心を、不十分な職員には意識を持ってもらえるような工夫をしていきたい。また、個人面談を実施をしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修への参加を積極的に行っている。事業所全体的には学びやすい環境だが、働きながらの実践でのフォローや指導はバラつきが生じるなどの問題点もある。中堅職員から新人職員へは指導方法などが分からず困る事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内の交流はありますが同業者、他施設との交流が無く他社の施設や法人での取り組みや情報共有が出来ていない。そういう機会があったらよいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフで相談をしながら進めています。安心を得られる様に心掛けて努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り面会などの機会を通してご家族様の意見や要望を聞くようにしている。本音や実際にどの様に思っているかが分からない場合もある。ケアマネジャーが入居前に生活や暮らし方への意見要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の心理面も考えてスタッフの対応を共有したりケアプランに反映をする様に意識をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どこまで暮らしを共にしているかは分からないがその様になれる様にしたいと思っている。利用者様には受身の方もおり現状はスタッフの流れになってしまっている事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族によっては事業所との距離感が様々で難しい面もあるが協力的なご家族様とは共に生活を支えている関係もあると思う。少しでもご家族様に家族としての協力を依頼や提案は出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際は介護職員での対応では出来ない面もありご家族様任せになっている事が多い。過去や故郷の話、家族や生い立ちの話を会話では出来ているが、それより先の事へは繋がれていないのが現状。	本人や家族、アセスメントシートなどから情報を得て、馴染の店や場所に出かけている。仕事で付き合いのあった方や近所の人、デイサービスで知り合った方との旧交を温めている。家族で旅行へ出かけたり、晩酌やカラオケなど昔からの楽しみなどの継続的な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や性格を考慮しお互いが気持ち良く暮らせる関係づくりに配慮をしている。また同じ空間で生活をする仲、入居者様同士の関わりを持てるような工夫も行っている。認知症状などで日や日時によって違ったりする際の細かな観察が必要だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居をしなくてはいけなくなった場合には、その後のサービスや生活の方法などを考えてご家族様、ご本人様にとって最適な手段のアドバイスをしまた手配等も協力的に出来ていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で暮らし方や生活の仕方を選択肢を持てる事柄はご本人様に決めて頂けるように心掛けている。実際には半数ほどの方にしか選択する事が出来ず全ての方が満足して頂けているとは言えない。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取り、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様からの情報を頂き、事前カンファレンス等で職員間で共有をしている。暮らし方や生活環境については把握に努めているが実際の生活の中では活かされていない事も多いと思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の1日の過ごし方を大切にして過ぎて頂けていると思う。心身状況や有する能力を把握する様に努めているがその能力をもっと活かした過ごし方が出来たら良いと思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間でのケアプランについて話し合い、モニタリングを行い、ケアプランの見直しとご家族様への意見等の聴取を行っています。アイデアをもっと引き出し様々な事に望める内容に出来たらと思う。	入居者や家族の意向を聞き、担当者も参加して月1回のケアカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングをし、年1回の定期見直しをしている。状況に応じて随時見直しをし、家族に内容を説明し同意を得ている。どの職員も記録内容を共有して、入居者の状態を把握し同じケアができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、食事や排泄の記録を取り日々の生活の様子を共有出来る。口頭での申し送り等も行っている。記録のとケアプランへの反映が上手く出来ると良いと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合わせて、事業所内での連携(他ユニット、事務員、デイサービス)を取って柔軟に対応が出来ていると思う。臨機応変に対応出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ地域資源を活用し外出や参加をする機会を増やしています。事業所としての計画や年間目標として力を入れていけていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択、その他の受診等について入居前に家族との相談で決めて頂いている。往診診察を利用し体調管理も出来ていると思う。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いている。提携医による月2回の往診がある。専門医の受診は家族が対応している。看護師が常駐しているため、日々の健康管理や急変時の対処について、医師と連携をしながら適切なケアが受けられるようにしている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で確認しながらケアにつなげるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も日々の介護ケアを一緒に行い日常的に入居者様の状態を把握できている。看護と介護での連携を行い体調の変化や様子の変化の情報も共有出来ていると思う。非常勤看護師な為、不在時の判断や対応を介護職が行う事に不安な時もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は入院先医療機関、ご家族と連絡連携を行えている。安心して治療に専念できるように、入院期間の確認や退院後の対応もご家族様の意見や希望を踏まえた上で話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する事は、現段階では行っていない。が実際に入居中に重度化などがあつた場合は可能な限り対応をしている。その際には重度化する前に他施設や他の方法を考えて動いて頂けるように協力を依頼している。実際に重度化した場合には現時点よりも介護技術や知識が必要となってくる。その対応が今後の課題となってくる。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をして同意を得ている。今後に向け、看取りの支援の必要性を感じ取っており、知識や方法などを高めるために研修などを考えている。	早い段階から、本人や家族の意向や希望を確認し、事業所でできることや対応できないことなどを伝え、終末期に向けた方針を明確にさせて同意を得ていくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内で研修、勉強会を行えている。マニュアル、手順は揃っているが実際に処置や対応をする機会が少ないので、実践力と経験が乏しいと思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難練習や避難経路の確認を行っている。消防避難計画もあるが、突然起きる災害時に正しい動きが出来るか不安。地域との協力体制は取れていないと思う。	火災・地震の避難訓練を消防機器業者の立ち合いで行い、消火器やAEDの扱い方、非常食づくりの体験を実施している。水や食料など3日分の備蓄があり、定期的点検している。地域との協力体制は今後の課題としている。	消防署の協力を得て、消防署立ち会いのもとに訓練を実施し、夜間の避難や経路、安全確保などについて指導や助言を頂き、安全性の高い訓練をするように願いたい。また、運営推進会議等で防災や地域との協力体制についての話し合いをし、周知や広報活動に努めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けているが、時々軽率な挨拶や対応をしてしまったり、している職員を見る事があるのでまだ不十分である。プライバシーの配慮は基本的な事なのでしっかりと対応し気をつけておきたい。	入居者はそれぞれの生活スタイルがあるため、他の入居者に迷惑を及ぼさない範囲で個々の生活スタイルを大切に、継続できるよう支援している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。希望者には居室に鍵がかけられるように工夫され、プライバシーが損なわれないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様な声掛けをして、可能な物や事柄は選んで頂く様に心掛けて努めていると思う。上手く選べられない方は、表情や反応を察して対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を大切に出来る限りその人のペースで行っているが、介護職員が優先的になっていしまう事も実際にある。食時間や入浴時間などで希望に沿えず介護職員優先になってしまう事も多々あると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な方には声掛けをしてお手伝いをさせて頂いて整容に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの味の好みに応じて可能な時は味付け等を変える等の対応をしている。調理はできる方が現状少ない為、盛り付けや配膳、食器を洗うなど簡単な事を居一緒にして頂いている。何か少しでも調理に関わりを持って食事を楽しんで頂きたい。	献立表に基づき季節感のある食事や手作りおやつを提供している。食材は業者より届けられる。入居者は保有能力に合わせて、調理や盛り付け、片付けや洗い物等出来る事を職員と一緒にしている。おやつ作りや喫茶、外食なども楽しみのひとつとなっている。職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、その方の食事量や水分量を把握している。その方に合った(量や好み)食事や水分を提供する様にしている。認知症による過食等にも注意して管理が出来ていると思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、歯磨き等の声掛けや誘導を行っています。自己にて行えない方もみえるのえでその方々に合った回数、方法で支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を活用し、個々の排泄パターンを把握しそれぞれのパターンに合った排泄ケア、声掛け誘導をしています。パットを使用している方もトイレでの排泄ができる様に支援もしています。もう少し正確な排泄状況を把握し、その方に合った時間やタイミングを理解出来たらと思う。	座位での排泄やおむつ、リハビリパンツを使わない支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。夜間にトイレが分かりやすいよう足元や手洗い場に照度を落としたり灯りがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々体操や運動ができる様な時間を設定している。実際に便秘や排便コントロールが出来ない方へは看護師と連携し内服薬などで対応している。内服に頼らない日々の活動や対応で便秘予防が出来ると良いと思う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人様のご希望の日や時間帯に入れる様にしたいが、職員の状況などから希望通りの入浴が出来て居ない事もある。入浴の好き、嫌いやこれまでの入浴習慣に沿った入浴ケアが出来ようになるにはソフト面の改善も必要と思われる。	週3回を目安に入居者の希望を聞き、10時から夕食までを入浴時間としている。お湯は毎回張り替え、希望者には入浴剤を利用し入浴を楽しめるようにしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠出来る様に、日中の活動や外出を行えるようにしている。また、その方の睡眠時間や睡眠のパターンを把握し、就寝時間や起床時間を個々に設定している。体力や体調に合わせてその都度休息をする時間を設けているが、実際はイスに座っている時間が多いとも思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内容や効果等について全員が理解出来ない。薬情報は職員が見える場所に設置してあるが看護師以外活用出来ない。入居者様の変化や薬に関する事は看護師へ連絡と相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中では、左記の件に工夫が出来ているが、個人の趣味や娯楽に関しての援助までは全ての方に出来ていないと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望に応じての外出が思うように出来ていない。人間的な課題があり希望に添えていない。訴えがあるも真剣に考えて実行できる姿勢で臨んでいきたい。	敷地内の散歩やテラスでの日光浴、花壇の手入れなどなるべく外に出るように心がけている。桜や秋桜など季節の花見に弁当を持って出かけたり、地域の夏祭りに参加したり、近隣のスーパーで買い物を楽しむこともある。遠出の外出には家族も一緒に参加する機会もある。職員で下見をして、楽しい外出ができるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはご本人様の現金を持っていく。お金の管理はその方の管理能力に応じて自己管理、事務所管理と分けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のご希望があれば、家族様の承諾も得て電話を掛けて頂ける様になっているが実際には電話の訴えがあった場合も、掛けておきます。仕事中で出ないのでは？等と止める様な声かけをしてしまっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的で落ち着く雰囲気にする様に心掛けている。施設感を出さない様にしている。空調や照明等は不快にならない様に調整出来てと思う。	建物が、ベージュで統一され木のぬくもりを取り入れた、明るく開放的な落ち着いた空間となっている。食堂兼居間には畳の部屋があり、ソファコーナーもある。好きな場所でテレビや新聞を楽しんだり、畳に横になり寛いだりしている。時間に追われないよう時計は目立たないところにあり、床に不必要な物を置かず安全に生活できる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や居室を使って独りになる時間を過ごされる方も居ます。気の合う方とのご自分の居室に招いてお話をして過ごされる方々もみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は馴染みの物を持ってきて頂き、使用しご自分のお部屋として認識出来るように工夫をしている。	家族と相談をして、入居者が使い慣れたベットや筆筒などを持ち込み、安心できるスペースや環境作りをしている。夫婦で入居されている方には、二部屋の使い方を自分たちで工夫して利用ができるように配慮されている。空調は職員が希望を聞いて調節している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方がどの程度理解して生活が出来るかの把握に努めている。危険な事や周囲に悪い影響がなければご自分のペースで生活をして頂くようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林(藤)		
所在地	豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成29年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした家庭的な雰囲気です。1日が流れている。個々の生活スタイルや性格、習慣を大事にしている。外出や地域との交流に力を入れている。認知症の方の理解と対応に力を入れて認知症の方でも落ち着いて生活出来るように努力をしている。医療との連携も図れており体調管理等もしっかりと行っていると思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年10月26日		

平成27年7月1日に開設した事業所は、デイサービスセンターが併設され、落ち着いた淡いベージュ色の外観で平屋建てのホームである。道路を挟んで高校があり、近くには小学校やコンビニ、住宅が広がり、生活の息吹が感じられる一角に位置している。職員一同、「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念を振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、自分らしくいられる場所で集い、笑い、安らぎある環境作りをも目指している。明るく清潔なホームは、それぞれのユニットやデイサービスセンターへ自由に往き来をして、イベントやカラオケなどで楽しい交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理し、食べる楽しみとなっている。大人の住む環境に心がけ、調度品や絵画など程よく配置している。柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の掲示等はしてあるが、それに沿ったケアが出来ているかというとまだまだ不十分であり、今後のケアを基本理念に沿ったケアにしていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを意識して積極的に様々な行事に参加したり、主催をして努力をしている。今後も継続して活動を増やしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	左記の様な内容に関しての地域への発信はまだ不十分であり、認知症の理解へのアプローチを今後すすめていけたらと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、事業所の状況や活動、課題等を報告相談し、様々なご意見を頂いている。サービスの向上や地域との繋がりに活かしています。参加メンバーの枠を広げていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実際は質問や確認が多く、市町村とのサービスの取り組みの等の密な連携は出来ていないと思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止対象の具体的な行為についての理解が不十分。現在直接の身体拘束は行っていない状況であるが、今後どの行為が身体拘束にあたるのかを職員が理解し出来るよう機会を設ける必要がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会も少なく、認知症高齢者との接し方や対応方法の中でストレスや不安を抱える職員もいる。知識と意識、職員の体調とメンタル管理も必要。次々と起こる虐待の事件も親身に考え、分析する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての学ぶ機会が無く取り組みも支援も出来ていない状況。ほとんどの職員が制度について理解出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にご家族様に分かりやすい表記や言葉でなるべく理解しやすく説明をする様に心がけている。項目毎に質問や不安に思う事を聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するも活かされておらず。ご家族様の要望や意見を聞くように面会時には積極的に話を持ちかける様にしているが要望等の話は出来ていない状況。年に1度家族様アンケートを実施してる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の思う事、提案を活かし働きやすい職場環境作りに努力している。経験や立場に関係無くどの意見も大切に聞き入れる様に会議の中で話し合いをする様に努力をしている。新人など意見を言いにくい職員への言いやすい環境を作りたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を把握する様に努めているが、その評価として何かの形に出来ていない。やりがいを引き出し職員が向上心をもって望める職場環境にしていきたいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの経験年数や力量に合わせた勉強会に出席させ、外部研修にも定期的に受講させている。働きながらの指導やトレーニングを行い実践的な指導を強化していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の交流機会を設けているが、他施設等との交流がない。管理者も含め職員が他施設への訪問や交流が出来たら良い情報や刺激を得られると思う。難しい課題と思うが1つ進展出来たら良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のケアには不安等を抱えているという認識を持ち、特に意識して接する事がしている。傾聴を行い不安の軽減と安心できる声かけを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、相談時には多くのご家族が不安を抱えている。入居する前にしっかりと説明と見学をして頂き、場面毎に方法や課題等の付加説明を取り入れている。ケアプラン作成時にご家族様の要望もプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階での必要なサービスの実施が出来ていないと思う。初期段階での見極めを行い「今一番必要なサービスは何か」を考え実行する必要がある。初期から長期的な目標になっている傾向にある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々の性格ややれる事を見極めて共に生活をしていく事に心がけているが、その反面介護をしているという側とさせる側の認識になってしま時もある。介護ではなく暮らしという認識を常に持って支えていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは積極的にお越しいただける様に家族様を踏まえた行事を企画して行っている。しかし参加して頂けるご家族様が少ないのが現状。面会時には、様子の報告や今の課題等をお伝する様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活との繋がりを可能な限り行える様に工夫をしている。買い物の場所や外出を昔から利用していた場所にする等。また、ご家族様以外にも近所の方や仕事の付き合いのあった方も足を運んで下さっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を円満に築きたいとしているが、ロげんかやお互いの不満などが生じてしまう事もある。孤立してしまわない様に様子を伺い声掛けやお誘いを行っている。時に入居者様同士のトラブルにどの様に対応、仲介したらよいか困る時も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退居者も退居をしなくてはならない方も居ない為実施できず。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人様やご家族様の希望や思いを聞き入れケアプランや普段の生活に活かせる様にはなっているが実際は本人様の要望や思いに沿った生活を送れているかというところではないのが現状。外出等の希望にも添えない事が多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでご自宅で使っていた馴染みのある家具や生活用品を持参して頂いている。過去の暮らし方は本人様、ご家族様から聴取しているが施設内での実施には限界を感じる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況は毎日バイタルチェックと観察等で確認を行っている。心理症状の変化も申し送り等で報告し現在の心身状況は把握している。また、普段との違いにも気にする様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを行い個々の生活の見直しや課題について話し合っている。家族や本人様は参加していない為、職員視点の発想になってしまっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を記載し、日々の様子や変化を記録しているが、記録の書き方がまだ習得出来ていない職員も居て記事の細かさや内容にばらつきがある。記録についても学ぶ機会が欲しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変の対応をしているが、事業所内での解決が困難な場合はご家族や他職種等への協力を頂く事でより広く対応が可能になると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は積極的に行っていると思うが、その方にとっての地域資源は何かを理解しその方が必要としている援助に対しての支援が出来るかは自身がない。地域資源を個々に使い分けられたら良いと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にて定期的に健康管理を行っている。これまでのかかりつけ医を継続している方も居る。医師の選択は家族様にして頂いている。体調変化時には瞬時に対応出来る体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや体調等の変化時には看護師へ報告を行っている。医療が必要な際には看護師と医師が連携して必要な措置を講じている。お互いの職種を尊重し連携が図れていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師との連携も確立出来ており、医療機関への情報提供や病状の報告も行っている。協力病院又は入院先との連携を図り治療の経過や退院に向けての相談も適時に行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けての取り組みには現情では体制不足である為限界がある。その事は入居前より十分に説明と理解を得ている。実際に重度化してきているのを感じるので今後は心配。今は介護の工夫等で対応できているが医療が絡んでくると対応出来ない場合もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急時の対応方法は設置してあるが、実践力を身につける為の講義や演習は行っておらず実際に急変が起きた際の適応力に欠けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、屋外に出てからの避難経路や避難場所への移動に不安がある。防災時の職員の動きや役割について定期的に確認をする時間が欲しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語や尊敬語に気をつけて対応をしているが、慣れが出てきたり時間等に追われてしまうと表現や声掛けに乱れが出てしまうことがある。親しい仲にもしっかりと敬意と敬語を入れて目上の方との接し方を心がけたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に選んでいただく機会を多くし、可能な限りご希望に沿うように心がけている。過ごす場所や過ごし方も確認しながら行っている。ただ希望に添えない事も多く難しさを感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良くない事と認識をしているが実際には職員側の都合を優先してしまう事が多くて反省をしている。業務をこなさなくてはならないというプレッシャーがその様になってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ際はご本人様に選んで頂く様にしている。お化粧品や整容も適時声掛けを行い身なりには配慮を出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際には可能な方には一緒に調理をして頂いている。食事も職員と一緒にの時間に一緒に食べている。嗜好などの可能な限り対応が出来ていたと思う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量の確認と記録を行い、健康状態や健康チェックを行っている。場合によっては主治医へ相談等も行っていた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや状況把握に努め、その方に合った排泄援助が出来ていると思う。夜間の失敗や自己で管理をされている方への援助に戸惑う事がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状態になっていないかの確認を目視と聴取で取っているが、認知症状により明確な確認が出来ない事がある。身体を動かせる機会をつくり便秘予防(健康意識)出来ていると思う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全てのご希望(時間や回数)に対応が出来ていないが少しでもご本人の入浴希望に合わせられる様に声掛けや入浴の順番などを配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて居室で休んで頂いたり、ソファや和室に場所を変える等の声掛け等を行い座りっぱなしにならない様にしている。その方の体力や生活スタイルを重視して無理のない一日を過ごして頂きたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用等医学の面では不十分で理解出来ない。看護師と主治医との連携は上手く図れていると思う。飲み忘れ等のミスも起きてしまっているので2重3重のチェック体制でミスのない様に気をつけたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品等を活かした気分転換は出来ていなかった事が多い。お一人お一人の希望などを沿う為には時間や人員などの確保が必要で長い目で見て叶えられたらと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット全体としては少しでも外出や社会との関わりを目標に企画し実行できているが、個々の希望に関しては叶えられていない。(買い物や外食)。現状の職員での対応には限界があるのでご家族様への協力の依頼も必要と思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様がお金を持ち保管する方は少なく事務所にて預かっているのが現状で買い物や支払いの際は本人様にお渡ししている。お金に執着する方などはご本人様に持って頂きたいが紛失等の面も心配。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っていないが、電話はご家族様に協力を得て電話を掛けさせて頂いている事もある。ご本人の携帯電話をお持ちの方もいる。個々でご家族様と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居室やリビングの掃除を一緒に行い環境整備に努めている。その時その時期に快適な温度、明るさ、光加減は個々の希望に合わせている。(食堂以外)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席などの指定は無く、その時の気分などに合わせて座ったり食事を召し上がって頂く。和室やソファなど自由に利用して頂いている。たまに仲の悪い日があると配置などは配慮工夫をしていかななくてはならないが出来ていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族様より部屋の使い方や設置、持ち込み物などを相談頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべくご自分での生活を送られる様な取り組みを心がけて、自分で出来る事は自分で行って頂く支援に心がけている。しかし、過度に手伝ったり心配してしまう。居室やトレには表示をし自己でも使える様に工夫している。		